

令和7年度

熊本県相談支援従事者現任研修

事前課題ガイダンス

現任研修の目的

現任研修は、資格の更新を手段に、
相談支援専門員がソーシャルワークの担い手として必要な

『地域を基盤としたソーシャルワーク実践』

が行える技術を身につけるという観点（目的）から、求められる知識や技術を理解し、実践を通して深めていくことを重視して、カリキュラムが組まれています。

現任研修の獲得目標と構成

- ① 個別相談支援の基本を理解し、それを基盤とした実践を行うことができる。

【ストレングスに着目した支援や意思決定（支援）を通して、利用者が自己肯定感を高め、エンパワメントされていく支援を身につける】

- ② 多職種連携及びチームアプローチの理論と方法を学び、実践することができる。

【障害福祉サービスのみならず、他の制度の機関やインフォーマル資源を含めた多職種連携による支援を、チームアプローチを通して実践する技術を学びその能力を獲得する】

- ③ コミュニティワーク（地域とのつながりやインフォーマルサービスの活用、社会資源の開発等）の理論と方法を理解し、実践できる。

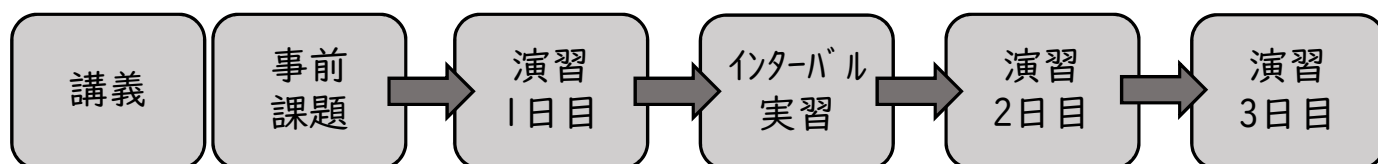
【利用者の地域生活を理解し個別課題を地域課題としてとらえ、主任相談支援専門員と連携した支援の展開や自立支援協議会への報告や検討していくプロセスを理解しその能力を獲得する】

- ④ スーパービジョンの理論と方法を理解するとともに、相談支援実践においてスーパービジョンを取り入れる。

【相談支援の実践と継続的な研鑽に向けた、地域におけるOJTとその体制の重要性を理解し、基幹相談支援センター等を活用する】

現任研修の構成

◇現任研修は…



『講義』と『事前課題』、3日間の『演習』、そして演習期間中の『インターバル実習』で構成されています。

『事前課題』はご自身の実践についてまとめていただくものです（重要）。

『インターバル実習』では演習をもとにご自身で取り組みつつ、地元の基幹相談支援センター等に出向いて、実地研修（OJT）を受けていただきます。

事前課題について

- ◇『事前課題』は
ご自身の演習の効果や達成に大きくつながるので重要です。
 - ◇ご自身の『実践事例』をもとに、
『事前課題』の表紙にある記載事項をよく読んで取り組んでください。
 - ◇作成に際しては、氏名、年齢、その他の固有名詞など
対象者が特定できないように情報を匿名化してください。
注：対象者名は『A氏』『S氏』などのイニシャル表記
年齢は『20代』『30代』など（10代以下は実年齢表記）
その他は『〇〇病院』『〇〇事業所』『〇〇町』など
 - ◇『改訂 障害者相談支援従事者研修テキスト 現任研修編』
2ページから読み進め、10ページ～22ページを参考に取り組んでください。
-

事前課題のポイント

- ◇『事前課題』の表紙に『実践事例』を選定する際の注意点がありますのでご確認ください。
- ◇『実践事例』の選定は、『意思決定支援』『多職種連携』『コミュニティワーク』この3つのキーワードに焦点を当てつつ、『ご自身が感じる支援の難しさや困り感』をイメージして選考してみるとよいでしょう。
- ◇『事前課題』に取り組む際に、ご自身の日頃の視点の特徴や当該事例には該当しない項目などにより、記載に濃淡が生じることもあるかもしれません。実践をふりかえり、それらを再認識しながら記入してみてください。空欄がある場合はその理由を記載しておくのもよいでしょう。
- ◇演習を通じた新たな気づきについて追記する機会も一部用意しています。

受講の心構え

◇『講義』を受講してから『事前課題』に取り組みましょう。

◇『事前課題』は、実践事例の選定ポイントに留意して取り組み、提出後も読み返しておくなど、出来るだけの準備をされることで演習がより充実するでしょう。

◇演習への集中力が格段に増すように、当日は電話等の通信が控えられるような業務管理をお勧めします。

◇当日の体調管理には充分ご注意ください。

当日元気にお会いできることを
一同楽しみにお待ちしております。